



二輪草だより

平成30年1月号
発行:二輪草センター

センターの活動予定

◆2月下旬 二輪草だより2月号発行

『医学生・研修医・女性医師の集い』終了報告

二輪草センター助教 菅野 恭子

平成29年11月6日に医学生・研修生・女性医師の集いが開催されました。今年度も昨年と同様「研修医生活ってどんなもの？」と題し研修医、その後の女性医師としてのライフスタイルを考えてもらうテーマで立場の異なる5人の先生方にお話しして頂きました。

まずはじめは、旭川医科大学病院総合診療部の桑井志麻先生ですが、子供が生まれるまでは研究の傍ら趣味の登山をアクティブに楽しまれていたそうです。妊娠中は研究費を取るための準備をしたり、子育て中は論文の執筆や勉強に充てたりしたとのこと。また、ご主人の御両親やご主人の助けをかりながら子育てと研究の両立している様子について語って頂きました。自分の状況の中でできる事が何かを考え、やりたいことをあきらめないで細々とでも続けること、思っていることは行動に移し、言葉に出すことの重要性についてお話されました。次にお話し頂きました旭川医科大学皮膚科の齋藤奈央先生は今年の6月に出産され現在育児休業中ですが、ご自身が大学院に進まれたこと、ご主人の転勤に合わせて旭川に来られたこととお話しされました。また、最近増加している高齢出産、不妊治療についての貴重なお話もありました。3番目の旭川医療センター初期研修医の竜川美里先生は医師に向いているのだろうか、医師として続けていけるのか、子育てと両立していけるのかと不安になるそうですが、素敵な指導医や患者さんとの出会い、旦那さんの存在が支えとなったようです。4番目は旭川赤十字病院初期研修医の松田亜衣先生で、将来について不安があり今回を機に周囲の女性医師にインタビューをされ、その内容についてお話がありました。5番目は市立旭川病院の初期研修医の栗山知穂先生で、専攻科をどのように決めたのか、ご自身の結婚についての本音をお話してくださいました。女医になって良かったと胸を張って思えるようにしたいという言葉が印象的でした。今回の参加者は医師27名、学生が48名でした。多くの学生さんが来てくれましたし、アンケート結果でも9割以上の参加者に満足して頂いた内容だったようで、様々な立場の講演が素晴らしかった、現実的なライフプランを考える事ができた、今後の選択の参考になったなど多くの意見が寄せられました。早い時期にロールモデルの体験談を聞くことは今後の自分自身の働き方や生き方の参考になると思いますので、今後もより多くの学生さんに参加して頂ければと思います。

最後になりましたが、主催頂きました旭川市医師会および北海道医師会に、この場を借りてお礼を申し上げます。またお忙しい中ご講演頂きました先生方にも深謝致します。



『看護学生と看護師の集い』終了報告

看護職キャリア支援 職場適応支援担当 尾形 千悦

12月1日(金)に、『私が看護師を続けてきた理由～ありたい自分・なりたい自分～』というテーマで、「看護学生と看護師の集い」を開催しました。

4階東ナースステーションの助産師 鈴木彩花さんは「私が助産師として働く理由」というテーマで、産科病棟の魅力を感じ、高い専門性のある助産師という仕事を選択したことや、就職・結婚・出産、復職という色々な節目で、人生設計をしつつ意思決定してきたお話でした。子供を預けて仕事をすることに迷いを感じながらも、一番大事な家族ということにはぶれず、家族や職場のサポートに感謝し、今後は育児と仕事を両立する人の力になれるようになりたいという姿勢が素敵だと思いました。次に、腫瘍センター・点滴・緩和センター副看護師長で、がん専門看護師の尾崎靖子さんは「自分を変える、覚悟が持てたらいいのにな」というテーマで、注目のドラマ「陸王」の話から、どんな「覚悟」をしながら進学し、仕事に復帰してきたのかをお話しいただきました。出産・育児の真ただ中に専門看護師となり、いろいろな「覚悟」の選択をしてこられました。研修中の受け持ち患者さんの「私の病気ではなく私のことを聞いてくれてありがとう」という言葉や、お子さんからの「いつもおかあさんにつきあってあげているんだからたまにはぼくにもつきあってよ」という言葉に思わず胸が熱くなりました。周りのサポートに感謝し、支えてもらう分「看護という仕事を通して還元したい」という熱意が伝わるお話でした。最後に、光学医療診療部・放射線部ナースステーション看護師長、菅原友美さんには「今、自分を振り返って思うこと」というテーマで、看護師をめざした経緯や、大学病院に憧れたエピソード、就職後、厳しい現実の中で仕事を続けることができたのは、友人の励ましと先輩の何げない言葉だったことを振り返っていただきました。仕事の継続に悩んだ時「子どもは母親だけの愛情がすべてではない。その時々誰かに愛情を注がれればちゃんと育つ」というその当時の師長さんの言葉を受け止め、働き続けてきた菅原師長さんのしなやかな強さを感じました。いろいろな立場・世代で、抱えている課題は違いますが、「看護職であること」を選び続けてきた「理由(わけ)」は、看護することへの情熱や支えてくれたたくさんの方がいること、そしてその人たちへの感謝と愛情であると感じました。参加者は、学生3名、看護職19名、教員3名の計25名と少なめでしたが、アンケートでは自分自身を振り返り、自分はどうありたいのか、どうなりたいのかを考えるきっかけになったという意見が多数でした。

今後もより多くの皆さんに参加していただければと思います。



病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【12月20日～1月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	8回	稼働回数	8回
病児・病後児保育室	依頼回数	11回	利用回数	8回
カウンセリング相談			利用回数	5回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

【お問い合わせ先】旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249

開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp

ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>

